

**令和6年度
科学技術分野の文部科学大臣表彰
(若手科学者賞)
推薦要領**

推薦受付期間：令和5年5月26日～7月20日

文部科学省研究振興局

<目次>

科学技術分野の文部科学大臣表彰について	1
若手科学者賞について	2
推薦に必要な申請書類	5
申請書類の提出方法	8
申請書類の記載要領	12

科学技術分野の文部科学大臣表彰について

(1) 目的

この表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的としています。

(2) 表彰の種類

科学技術分野の文部科学大臣表彰の種類は以下のとおりです。なお、科学技術特別賞、科学技術賞（研究部門）及び若手科学者賞については、日本国籍を有し海外を拠点に研究活動等を行う者も対象に含みます。

表彰の種類	表彰対象等
科学技術特別賞	<ul style="list-style-type: none"> ○科学技術に関する研究開発において特に優れた成果を収めた個人又はグループ ○科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動を行い、又は顕著な研究業績をあげた個人又はグループ
科学技術賞	
開発部門	○我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人（30件程度）
研究部門	○我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ（50件程度）
科学技術振興部門	○研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ（10件程度）
技術部門	○中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人（20件程度）
理解増進部門	○青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ（20件程度）
若手科学者賞	○萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人（100人程度）
創意工夫功労者賞	○優れた創意工夫によって職域における科学技術の進歩又は改良に寄与した個人又はグループ（500人程度）
研究支援賞	○科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて、高度で専門的な技術的貢献を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ（10件程度）

若手科学者賞について

(1) 表彰対象

1. 若手科学者賞は、次代を担う若手研究者の自立を促し、独創性の高い科学技術の発信に貢献するため、萌芽的な研究あるいは、独創的視点に立った研究等、高い研究開発能力を示した若手研究者を表彰する。
2. 若手科学者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。
萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人

※1 「若手研究者」とは

- ・受賞時（表彰年度の4月1日時点）において40歳未満の研究者（上記年齢制限内であれば日本学術振興会特別研究員も対象になります。）
- ・なお、例年、女性候補者の推薦件数が少ないこと等を踏まえ、出産・育児により研究に専念できない期間があった場合は、対象の年齢を42歳未満に緩和しました（令和5年度表彰から適用）。本制度も活用して、女性候補者の積極的な推薦をお願いします。

※2 「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者個人」とは

- ・科学技術の各分野において、新たな研究手法、独創的な視点に立った研究手法、社会・経済の進歩・発展に貢献する新たな研究等によりその研究能力あるいは開発能力の優秀性を示す顕著な業績をあげた者
- ・学会表彰等により、研究の独創性等が客観的に評価されている者
- ・国際的に高い評価を得ている学会誌・雑誌等に論文が掲載される等、その優秀性が客観的に評価されている者

(2) 候補者の要件等

<候補者の年齢>

- ・令和6年4月1日時点の満年齢が40歳未満の研究者を対象とします。
- ・ただし、出産・育児により研究に専念できない期間があった場合は、42歳未満の研究者とします。性別は問いません。なお、「研究に専念できない期間」とは、休暇の取得や休職・離職などその期間が定量的に算定できるものとします。

<候補者の受賞歴>

- ・同一の業績により、既に国家栄典（叙勲、褒章）を受章又は科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞した者は、表彰対象となりません。
- ・過去に若手科学者賞を受賞した者は、本賞の表彰対象となりません。

<その他>

- ・同一人物の2件以上の推薦や、異なる賞・部門への重複推薦はできません。該当する場合は、審査の対象から除外します。
- ・候補者は、研究不正又は研究費不正により競争的研究費制度の応募資格制限中でない、また、候補者及びその所属機関は、訴訟が係争中であること、公正取引委員会による取調べを受けていること、不祥事の報道がなされていること等のない、大臣表彰を受賞するにふさわしい者を候補者としてください。
- ・人文・社会科学分野の候補者の積極的な推薦をお願いいたします。

(3) 推薦方法

- ・文部科学省が推薦依頼を发出した機関（以下「推薦機関」という。）から推薦を行ってください。なお、推薦機関一覧については、文部科学省ホームページに掲載しております。
<推薦機関一覧（科学技術賞・若手科学者賞・研究支援賞）>
URL : https://www.mext.go.jp/content/20230526-mxt_sinkou02-000029536_2.pdf
- ・上記に関わらず、日本国籍を有し海外を拠点に研究活動等を行う者を推薦する場合に限り、個人推薦（推薦機関の長、部局長又はこれらに準ずる者からの推薦）を可とします（自薦は不可）。
- ・候補者に共同開発者、共著者がいる場合は、候補者が今回の表彰に推薦されることに関して、事前に当該共同開発者、共著者等の了承を得てください。
- ・同一人物の重複推薦を避けるため、他機関に所属する者を推薦する場合は、事前に候補者の所属機関の了解を得てください。

(4) 推薦受付期間

令和5年5月26日（金）～7月20日（木）

(5) 審査

- ・文部科学省に設置された科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会（以下「審査委員会」という。）において審査・選定を行います。審査の過程については非公開とします。
- ・審査委員会における審査に当たり、必要な書類等の提出を追加で求める場合があります。
- ・申請書類等について、本要領の記載事項若しくは所定の様式を満足しない場合、又は、不実、虚偽の記載の事実等があった場合は、審査の対象から除外します。
- ・受賞者は、審査委員会における審査結果を尊重して、文部科学大臣が決定します。

(6) 受賞者の発表

- ・審査結果は、令和6年3月中旬頃に推薦機関に通知します。
- ・受賞者は、令和6年4月上旬頃に文部科学省のホームページ等で発表する予定です。
- ・受賞者の氏名、年齢、顔写真、所属・役職、業績名、業績概要、推薦機関名等は公表されますので、予め御承知願います。

(7) 受賞者の表彰

受賞者の表彰は、原則として、4月の科学技術週間中に、表彰状及び副賞を授与してこれを行います。

(8) 表彰後の取消し

受賞者としてふさわしくない非行行為及び受賞者に係る提出書類に不実又は虚偽の記載の事実等が判明した場合、受賞の決定を取り消します。

(9) その他

申請書類に含まれる個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」に基づき、適切に管理し、本表彰審査のために利用します。

(10) 問い合わせ窓口

文部科学省研究振興局振興企画課奨励室

電 話 : 03-5253-4111 (内線 4233)

E-mail : sinsyore@mext.go.jp

推薦に必要な申請書類

申請書類の種類		記載要領 参照先	ファイル 形式	ファイル名	提出 方法
①様式若手1	候補調査書	P.12-19	PDF(① ~③をま とめる)	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ 申請書類.pdf	BOX
②様式共通1	履歴書	P.18			
③様式共通2	推薦書	P.19			
④添付資料1	主要特許論文等	P.15 10.	PDF	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ 主要論文特許等.pdf	BOX
⑤添付資料2	表彰歴	P.13 4.	PDF	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ 添付資料.pdf	BOX
	論文等+発表年証明 +アクセプト証明	P.17 11.			
	特許・実用新案	P.17 12.			
	著書	P.18 13.			
⑥添付資料3	出産・育児に 関する書類	—	PDF	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ 出産・育児.pdf	BOX
⑦様式若手2	候補者・業績一覧表	P.19	Excel	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ 候補者・業績一覧表.xlsx	BOX
⑧住民票 (旧姓使用を希望する場合等は、戸籍抄本)		—	紙	—	郵送
⑨申請書類チェックリスト		—	PDF	【推薦機関名】若手_候補者氏名_ チェックリスト.pdf	BOX

①【様式若手1】候補調査書

②【様式共通1】履歴書

③【様式共通2】推薦書

- ・ 候補者ごとに①~③で1つのPDFファイルにまとめてください。
- ・ 推薦書は推薦者の自筆署名が記載済のもの3名分が必要となります。
- ・ ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_申請書類」としてください。

④添付資料1【PDF】

- 「主要特許論文等」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【様式若手1】10. 関係
- ・ 上記の資料は、【様式若手1】候補調査書にオンラインで閲覧可能なURLを記載できない場合に添付してください。
 - ・ 特許公報、論文等の写を全てA4用紙となるようにPDF化した上で、1つのファイルにまと

めてください。

- ・ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_主要特許論文等」としてください。

⑤添付資料2【PDF】

- 「表彰歴」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【様式若手1】4. 関係
- 「論文+発表年証明+アクセプト証明」・・・・・・・・・・ 【様式若手1】11. 関係
- 「特許・実用新案」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【様式若手1】12. 関係
- 「著書」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【様式若手1】13. 関係
- ・上記の資料は、【様式若手1】候補調査書にオンラインで閲覧可能なURLを記載できない場合に添付してください。
- ・「表彰歴」、「論文+発表年証明+アクセプト証明」、「特許・実用新案」、「著書」の順に、全てA4用紙となるようにPDF化した上で、1つのファイルにまとめてください。
- ・上記の「表彰歴」、「論文+発表年証明+アクセプト証明」、「特許・実用新案」、「著書」ごとに、資料の右肩に以下のとおり候補調査書に記載の通し番号を付してください。
例：「論文一覧」の1番目に記載した論文について、オンライン上で閲覧できず、資料を添付する場合、資料の右肩に「論文-1」と記載
- ・「発表年証明」は、論文の発表年の記載がない場合のみ、「アクセプト証明」は、アクセプト済の未発表論文の場合のみ添付してください。
- ・ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_添付資料」としてください。

⑥添付資料3「出産・育児に関する書類」【PDF】

- ・令和6年4月1日時点の満年齢が40歳以上42歳未満の候補者を推薦する場合、添付してください。
- ・母子手帳の表紙の写など出産の事実を確認できる書類をA4用紙となるようにPDF化してください。
- ・ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_出産・育児」としてください。

⑦【様式若手】候補者・業績一覧表【Excel】

- ・Excelで作成し、候補者ごとに1ファイル作成してください。
- ・ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_候補者・業績一覧表」としてください。

⑧個人番号（マイナンバー）の記載のない住民票（旧姓使用を希望する場合等は、戸籍抄本）

- ・旧姓使用を希望する場合及び海外を拠点に研究活動等を行う者を推薦する場合は、戸籍抄本を提出してください。なお、旧姓使用を希望する場合であって、住民票に旧姓の記載がある場合、住民票でも構いません。
- ・令和5年4月1日以降に発行されたものを提出してください。
- ・必ず市区町村から発行された住民票又は戸籍抄本を提出してください。コピーやスキャン等の写は認められません。
- ・提出された住民票又は戸籍抄本は、本人確認（氏名、生年月日、年齢、性別、旧姓等）のために使用し、本年度の表彰終了後、速やかに破棄します。

⑨申請書類チェックリスト【PDF】

- ・ファイル名は「【推薦機関名】若手_候補者氏名_チェックリスト」としてください。

申請書類の提出方法

(1) 住民票（又は戸籍抄本）について

住民票又は戸籍抄本は、郵送にて提出してください（当日消印有効）。郵送先は以下のとおりです。

○郵送先

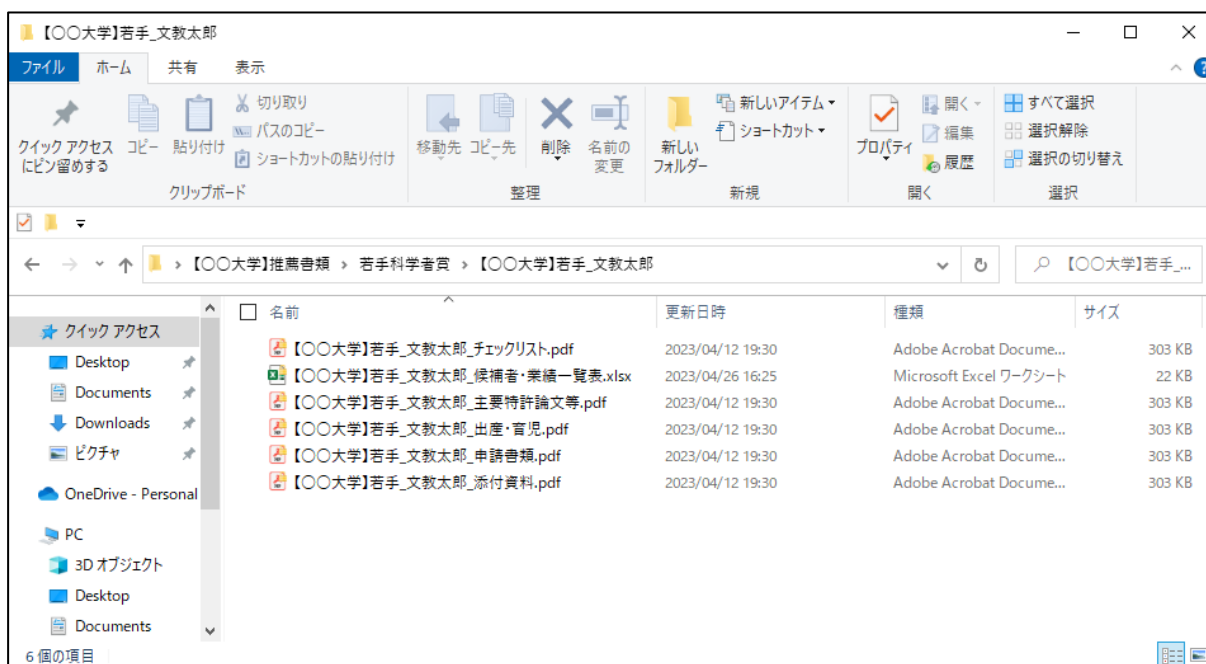
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
文部科学省研究振興局振興企画課奨励室

(2) 住民票（又は戸籍抄本）以外の推薦書類について

以下の手順により、提出してください。

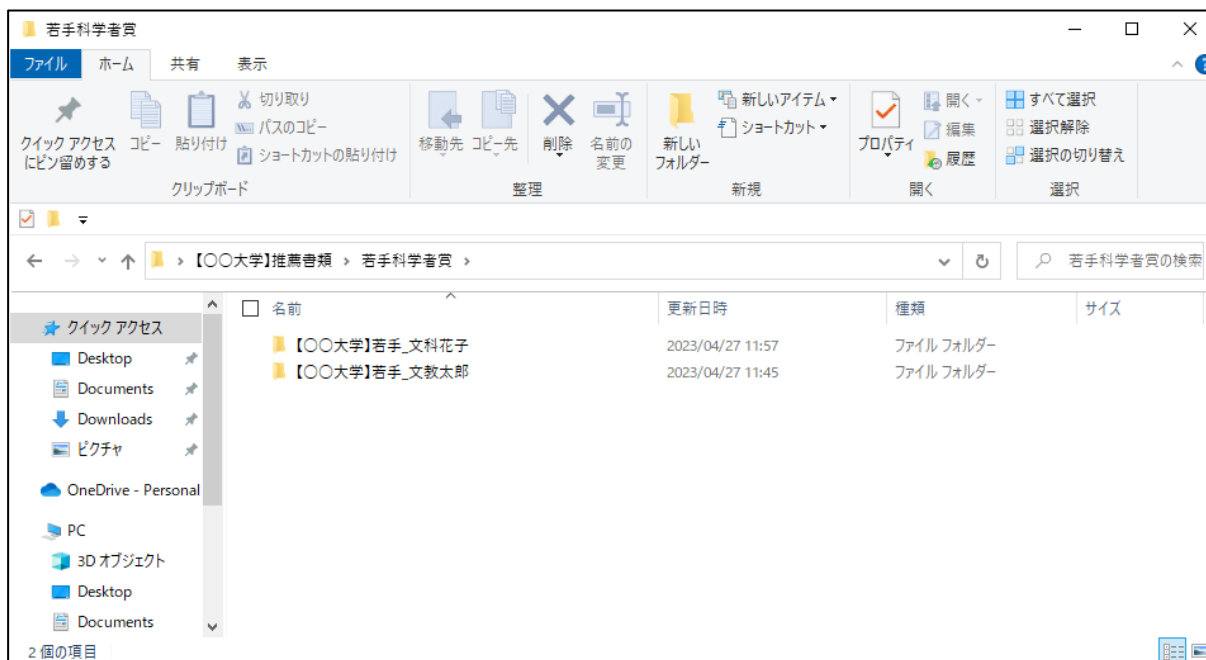
※キャプチャ画像はいずれもイメージです。

- ①「推薦に必要な申請書類」(p.5-7)を参照の上、必要書類がそれぞれ指定されたファイル名となっていることを確認してください。

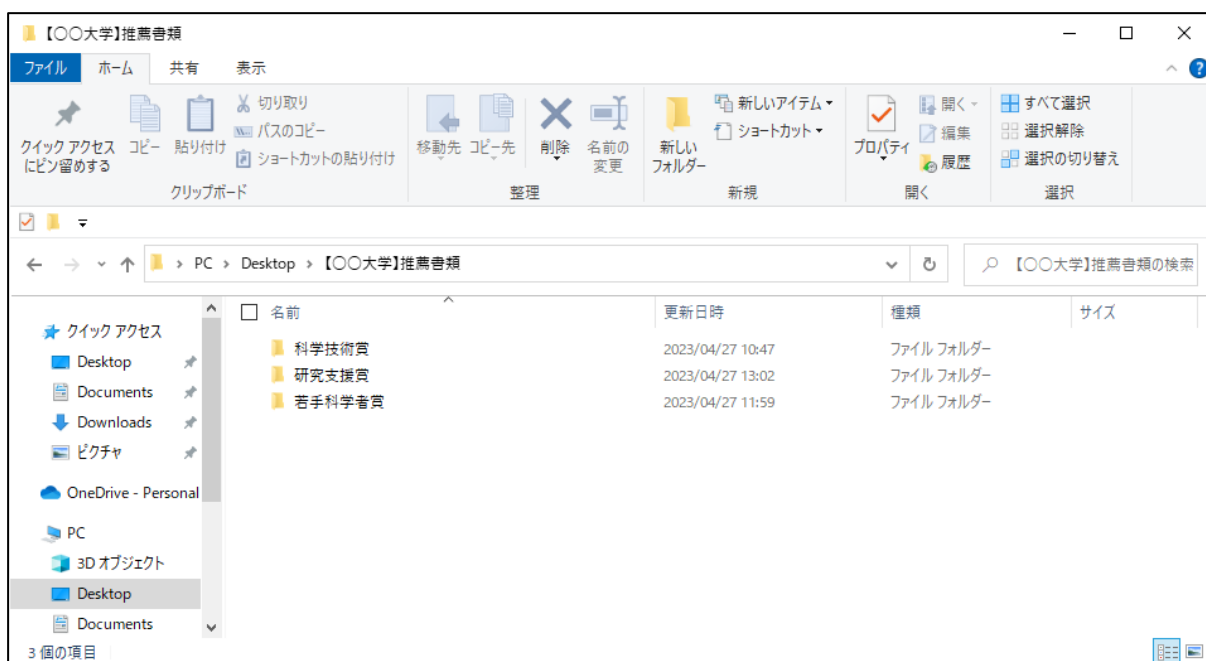


②上の階層のフォルダ名は「【〇〇】若手_候補者氏名」としてください。

※〇〇には推薦機関名を入れてください。



③推薦機関において他の賞へ推薦がある場合、賞ごとにファイルを分けて格納してください。



④ 推薦機関ごとに、1つの zip ファイルにまとめてください。

また、ファイル名は「【〇〇】推薦書類」としてください。

※〇〇には推薦機関名を入れてください。

⑤ 提出フォームに必要事項を回答してください。フォームの最後に BOX へのアップロードリンクを記載していますので、zip ファイルを提出してください。

<提出フォーム URL>

<https://forms.office.com/r/gambSzkDRF>

フォームで回答いただく内容は以下のとおりです。なお、推薦機関等に係る情報については、【様式若手 1】候補調査書「6. 推薦機関等」と一致させるようにお願いします。

<回答事項>

○ 推薦機関名

※法人格を含めて省略せずに記入してください。

○ 事務担当者の部署

○ 事務担当者の名前（フルネーム、複数登録可）

○ 今後、文部科学省とやりとりを行うメールアドレス（複数登録可）

※担当者の不在等により連絡が取れなくなることがないように、基本的に担当部署の共通アドレスを御登録ください。なお、同報してほしい個人アドレスがある場合、複数のアドレスを御登録いただいても構いません。

※やむを得ず個人アドレスを登録する場合、複数の者のメールアドレスを御登録ください。

○ 推薦機関の電話番号

※基本的に直通電話を御登録ください。

○ 推薦機関が所在する場所の郵便番号

○ 推薦機関が所在する場所の住所

※都道府県から入力してください。

○ 科学技術賞への推薦の有無

（ある場合のみ）推薦件数及び推薦人数を入力してください。

○ 若手科学者賞への推薦の有無

（ある場合のみ）推薦件数及び推薦人数を入力してください。

○ 研究支援賞への推薦の有無

（ある場合のみ）推薦件数及び推薦人数を入力してください。

○ BOX から推薦書類を提出してください。ファイルが追加された状態で、右下の「送信」ボタンを押すとアップロードできます<次頁図左参照>。

○ 最後に提出フォームの回答も忘れずに送信まで行ってください<次頁図右参照>。

令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 推薦書類提出先

【提出時の注意事項】

- 推薦機関ごとに、1つのzipファイルにまとめてください。個人で提出いたいても受理しません。
- ZIPファイル名の冒頭には、必ず【】で囲って推薦機関名を入れるようにお願いします。(ファイル名例：【〇〇大学】推薦書類.zip)
- 提出後、必ずフォーム (Microsoft forms) に戻って、回答の送信をいただくようお願いします。

ファイルのアップロード*

【〇〇大学】推薦書類.zip 3.2 MB ×

別のファイルを追加

送信

BOX アップロード画面

【補足】BOX にアクセスできない場合

○提出フォームへの回答は、同様に行ってください。

＜提出フォーム URL＞

<https://forms.office.com/r/gambSzkDRF> (⑤と同一のリンク)

○最後の設問で「セキュリティ等の理由により BOX へアクセスができない」を選択し、回答を送信してください。

○別途メール及び電話にて、奨励室まで状況を御連絡ください。その後、別の提出方法をお知らせします。

* 必須

以下のアップロード先より提出をお願いします。
最後の質問にも忘れずに回答し、送信してください。

【アップロード先】
<https://mext.ent.box.com/f/bca0e90296a24b2aa5aaf7a4ff0b7cc5>

【注意事項】

- 推薦機関ごとに、1つのzipファイルにまとめてください。個人で提出いたいても受理しません。
- ZIPファイル名の冒頭には、必ず【】で囲って推薦機関名を入れるようにお願いします。(ファイル名例：【〇〇大学】推薦書類.zip)
- 提出後、必ずフォーム (Microsoft forms) に戻って、回答の送信をいただくようお願いします。

11. BOXからアップロードできましたか*

「セキュリティ等の理由によりBOXへアクセスができない」と回答する場合も、必ず本回答を送信するようお願いします。

提出が完了した

セキュリティ等の理由によりBOXへアクセスができない (別途メール及び電話にてご連絡ください)

送信後に回答のコピーを印刷することができます

戻る 送信

パスワードを記憶しないでください。不正利用を報告する

フォーム送信画面

* 必須

以下のアップロード先より提出をお願いします。
最後の質問にも忘れずに回答し、送信してください。

【アップロード先】
<https://mext.ent.box.com/f/bca0e90296a24b2aa5aaf7a4ff0b7cc5>

【注意事項】

- 推薦機関ごとに、1つのzipファイルにまとめてください。個人で提出いたいても受理しません。
- ZIPファイル名の冒頭には、必ず【】で囲って推薦機関名を入れるようにお願いします。(ファイル名例：【〇〇大学】推薦書類.zip)
- 提出後、必ずフォーム (Microsoft forms) に戻って、回答の送信をいただくようお願いします。

11. BOXからアップロードできましたか*

「セキュリティ等の理由によりBOXへアクセスができない」と回答する場合も、必ず本回答を送信するようお願いします。

提出が完了した

セキュリティ等の理由によりBOXへアクセスができない (別途メール及び電話にてご連絡ください)

送信後に回答のコピーを印刷することができます

戻る 送信

パスワードを記憶しないでください。不正利用を報告する

申請書類の記載要領

【共通】

- ・申請書類は、所定の様式により、推薦機関が責任を持って作成・提出してください。
- ・様式の記載欄は加工せず、全て A4 縦用紙で作成してください。ただし、以下の項目については、必要に応じて行を追加してください。

【様式若手 1】候補調査書

「3. 研究経歴【候補案件とする研究テーマにおける経歴】」「4. 表彰歴【候補案件に関連する受賞歴】」「5. 表彰歴【科学技術分野の文部科学大臣表彰／叙勲・褒章】」「7. 内容に関する問合せ先」「11. 論文等一覧」「12. 特許・実用新案一覧」「13. 著書等一覧」「14. 新聞等掲載情報一覧」

【様式共通】履歴書

- ・書式設定（文字数、行数、フォント、余白等）は変更しないようお願いします。
- ・日本語で記入してください（論文名等は除く。）。署名欄を除き、手書きは不可とします。
- ・記載する内容がない項目は削除せず、「該当なし」と記載してください。なお、記載例及び注釈は、削除してください。
- ・URL には、ハイパーリンクを付してください。また、リンク先が有効であることを確認してください。
- ・記載できる業績は、提出期限前に特許・論文等の成果が公に発表されている、又は発表が決まっており、そのことが客観的に確認できるものに限り（ただし、特許・実用新案については、登録されているものに限り）。)
- ・専門分野以外の者が理解できるようわかりやすく記載してください。（特に、専門用語やアルファベットによる記載については十分に配慮してください。)
- ・年表記は、特に指定がない場合は西暦を使用してください。

【様式若手 1】候補調査書

1. 業績名

- ・文部科学大臣表彰に相応しい表現かつ候補案件とする研究テーマの内容を的確に表す業績名としてください。
- ・語尾は「研究」としてください。
- ・文字数は語尾を含めて 28 文字以内としてください。
- ・業績名には商標、商品名、会社名及び句読点等（（ ）「 」・、。）を使用せず、字間は空けなさい。
- ・「大区分・中区分・小区分」は、別表「若手科学者賞 申請分野分類表」に従い、候補案件の研究分野を記載してください。

2. 候補者

- ・「氏名」は、戸籍上の氏名（戸籍に記載されている旧姓も使用可。以下同じ。）としてくださ

い。字体は、原則として、戸籍どおりの表記としてください。なお、戸籍に記載されていない氏名（通称）による業績を推薦する場合は、戸籍上の氏名の下に通称を併記してください（この場合、申請書類に記載する業績は通称による業績に限ります。なお、受賞した際に表彰状等に記載される氏名は、戸籍上の氏名となりますが、報道発表資料等の公表資料に記載される氏名は、通称を選択することができます。）。

- ・「氏名」及び「ふりがな」は、姓名の間を全角一字分空けてください。
- ・「年齢」は、表彰年度（令和6年）の4月1日時点の満年齢を記載してください。
- ・「所属・役職」が複数ある場合は、併記することができます。なお、推薦する業績が、どの機関に帰属するかに留意ください。
- ・「所属」については、独立行政法人は（独）、国立研究開発法人は（国研）、財団法人は（公財）又は（一財）、社団法人は（公社）又は（一社）、株式会社は（株）とし、役職は正確に記載してください。
- ・履歴書の記載と一致していることを確認してください。

3. 研究経歴【候補案件とする研究テーマにおける経歴】

- ・候補案件とする研究テーマに関する大学院在籍時以降の研究経歴を全て記載してください。
- ・「研究テーマ」は、携わった研究テーマをそれぞれ「所属・役職」に対応するように記載してください。
- ・「本業績にかかる研究期間」の終期は、研究が継続中の場合、「～継続中」と記載してください。

4. 表彰歴【候補案件に関連する受賞歴】

- ・候補案件とする研究テーマに関して、候補者が受賞した表彰を全て記載してください。研究費の助成を目的としたものは、記載しないでください。
- ・国家栄典（叙勲・褒章）の受章歴及び科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞歴は、「5. 表彰歴（科学技術分野の文部科学大臣表彰／叙勲・褒章）」にも記載してください。
- ・受賞者氏名は、全ての受賞者を記載するとともに、候補者の氏名に下線を付してください。
- ・表彰年、表彰名称、主催団体名等は正確に記載してください。
- ・本項目に記載した受賞内容が主催団体等のホームページで確認できる場合は、その URL を記載してください。確認できない場合は、URL 欄に「資料添付」と記載し、本項目に記載した全ての受賞について、受賞内容が客観的に確認できる資料（受賞者氏名・業績名等が確認できる表彰状の写、表彰主催団体の対外発表資料等）を添付してください。
- ・添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照の上、指定の番号を資料の右肩に付し、指定の順序でファイルをまとめてください。

5. 表彰歴【科学技術分野の文部科学大臣表彰／叙勲・褒章】

- ・過去に国家栄典（叙勲・褒章）を受章又は科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞している場合は、候補案件とする研究テーマに関わるものに限らず全て記載してください。
- ・受賞者氏名は、全ての受賞者を記載するとともに、候補者の氏名に下線を付してください。
- ・科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞している場合は、受賞した年度・賞の種類・部門を

「表彰名称」欄に記載してください。また、「当時の候補調査書に記載した主要特許・論文」欄は、以下の内容・順序で記載してください。

- ・特許：特許第 00000000 号「タイトル」（外国特許の場合：US 特許第 0000000 号）
- ・論文：「タイトル」掲載誌、vol. 00、p000~000、XXXX 年発表
- ・著書：「タイトル」発行元、XXXX 年発行

6. 推薦機関等

- ・「推薦機関名」は、推薦機関の名称を正確に記入してください。ただし、個人推薦の場合は、冒頭に（個人推薦）として続けて推薦者の所属する推薦機関の名称を記載してください（例：「（個人推薦）国立大学法人〇〇大学」）。
 - ・「代表者職名・氏名」は、推薦機関の長の職名・氏名を記載してください。ただし、個人推薦の場合は、推薦者の役職・氏名を記載してください。
 - ・「所在地」は、都道府県名から記載してください。郵便番号は不要です。
 - ・「事務担当者」は、文部科学省からの事務的な連絡に対応し、確実に連絡のとれる者を記載してください（複数名記載可）。災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがあります。
 - ・メールアドレスは、担当者の不在等により連絡が取れなくなることがないように、基本的に担当部署の共通アドレスを御登録ください。なお、同報してほしい個人アドレスがある場合、複数のアドレスを御登録いただいても構いません。やむを得ず個人アドレスを登録する場合、複数の者のメールアドレスを御登録ください。
- ※同一の推薦機関から提出する候補調査書には、「事務担当者」の欄に同じ内容を記載してください。また、提出フォームにも同じ内容を入力するようお願いします。

7. 内容に関する問合せ先

- ・候補者の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む。）に対して適切かつ確実に応答ができ、確実に連絡のとれる者を記載してください（複数名記載可。候補者本人は不可。）。

8. 業績の概要

- ・A4 縦用紙 1 枚以内となるようにまとめてください。
- ・文章は全て箇条書きで簡潔明瞭に記載してください。図表等の使用は不可とします。
- ・「共同して研究を行っている者の氏名」欄は、候補案件とする研究テーマについて、共同して研究を行っている者（特許等の共同開発者、論文の共著者等）がある場合は、重要な役割・貢献を果たしている者を必ず記載してください。
- ・(1) は、当該分野における本研究テーマの目的を含めて簡潔明瞭に記載してください。
- ・(2) ①は、候補者の研究の独創性を明確かつ理解できるように記載してください。
- ・(2) ②は、本研究テーマにおける具体的研究手法・手段を含めて、研究の内容・ポイントが理解できるよう簡潔明瞭に記載してください。
- ・(3) は、当該分野における研究動向（方向性・手段等）について、現状及び問題点を中心に記載してください。

- ・(4) は、候補者の着眼点の優秀性を、当該分野に対するインパクト等を含めて記載してください。
- ・(5) は、今後の社会・経済又は国民の福祉に対する寄与、貢献の可能性を記載してください。
- ・候補案件の成果と関係のない内容は記載しないでください。
- ・記載内容の根拠が、【様式若手1】10.～13.にある場合は、該当する文章の後に括弧書きで、以下のとおり番号を付記してください。

例：「11. 論文等一覧」の1番目の論文が関連する場合

「研究開発の速度が飛躍的に向上し～、民間企業との大型共同研究が締結されている。
(11-1)」

9. 候補案件とする研究テーマの内容

- ・A4 縦用紙1枚以内となるようにまとめてください。
- ・参考図は簡単な図とし、必ず概要説明を付してください。特許公報等の図の転用は原則不可とします（やむを得ず特許公報等の図を使用する場合は、内容を理解する上で必要な説明を付してください。）。
- ・図や画像データのみカラー可とします。
- ・記載内容の根拠が、【様式若手1】10.～13.にある場合は、該当する文章の後に括弧書きで、以下のとおり番号を付記してください。

例：「11. 論文等一覧」の1番目の論文が関連する場合

「研究開発の速度が飛躍的に向上し～、民間企業との大型共同研究が締結されている。
(11-1)」

10. 候補案件とする研究テーマに関する主要な論文等、特許・実用新案、著書（5件以内）

- ・候補案件とする研究テーマに関する主要な論文等、特許・実用新案、著書をあわせて 5件以内で記載してください。
- ・過去に科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞している候補者について、当時の候補調査書に記載した特許・実用新案、論文、著書を記載する場合は、番号の前に△を付してください。

<論文等>

- ・候補案件とする研究テーマに関係する候補者の主要な査読付き論文（発表済（オンラインを含む。）又は未発表の場合はアクセプト済のもののみ）について、論文名、掲載誌名、巻（号）、ページ、発表年、全著者名、候補者の貢献度（％）、URL を記載するとともに、当該論文の概要を箇条書きで記載してください。
- ・候補案件とする研究テーマに関係する研究集会でのプロシーディングについては、論文と同じ記載内容のほか、集会（会議）名、開催年、査読の有無を追記してください。
- ・本項に記載した論文に関係する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の直後に括弧書きで記載してください。
- ・全著者氏名は、論文と同じ順番で記載し、候補者には、発表当時の役職を括弧書きで記載の上、下線を付してください。
- ・候補者の貢献度（％）は、各論文のオーサーシップの責任の程度等を踏まえ、適切な貢献度

を記載してください。

- ・著者が多く1枚に収まらない場合は、著者の一部を省略して差し支えありません。省略した人数は「他〇名」と記載してください。ただし、貢献度の大きい主要な著者（筆頭著者、責任著者等）は省略しないでください。
- ・候補案件の成果と直接関係のないもの、発表未定のものは記載しないでください。
- ・オンライン上で閲覧可能な論文は、その論文を閲覧することができる URL を記載してください。オンライン上で閲覧できない場合は、URL 欄に「資料添付」と記載し、論文を添付してください。なお、発表年の記載がない論文は、それが確認できる資料（論文の発表年証明）を添付してください。アクセプト済の未発表論文は、論文名の直後に括弧書きで「(アクセプト済)」と記載し、アクセプトされたことが証明できる資料（アクセプト証明）を添付してください。
- ・添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照してください。

<特許・実用新案>

- ・候補案件とする研究テーマに関係する主要な特許・実用新案（登録されている特許・実用新案のみ）について、登録番号、タイトル、出願年、登録年、全発明者氏名、候補者の貢献度（%）を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要を箇条書きで記載してください。
 - ・候補者の貢献度（%）は、各特許・実用新案における全発明者に対する候補者の貢献度を適切に記載してください。
 - ・全発明者氏名は、特許・登録公報（旧登録公報）と同じ順番で記載し、候補者には、発表当時の役職を括弧書きで記載の上、下線を付してください。
 - ・発明者が多く1枚に収まらない場合は、発明者の一部を省略して差し支えありません。省略した人数は「他〇名」と記載してください。ただし、貢献度の大きい主要な発明者は省略しないでください。
 - ・本項に記載した特許・実用新案に関係する発明について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの直後に括弧書きで記載してください。
 - ・候補案件の成果と直接関係のない特許・実用新案、出願中の特許・実用新案は記載しないでください。
 - ・主要特許・実用新案の URL は、特許公報が掲載されている J-Plat Pat[※]上で指定される URL を記載してください。J-Plat Pat 上の URL を記載できない場合（外国の特許等）は、URL 欄に「資料添付」と記載し、特許公報に相当する資料の写を添付してください。
- ※J-Plat Pat とは、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）が提供する知財情報の検索サービスです。以下のページから公報を照会できます。

[\(https://www.j-platpat.inpit.go.jp/\)](https://www.j-platpat.inpit.go.jp/)

- ・添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照してください。

<著書>

- ・候補案件とする研究テーマに関係する候補者の主要な著書について、著書名、出版会社名、発行部数、発行年、全著者氏名を記載するとともに、当該著書の概要を箇条書きで記載してください。

- ・本項に記載した著書に関係する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を著書名の直後に括弧書きで記載してください。
- ・全著者氏名は、著書と同じ順番で記載し、候補者には、発表当時の役職を括弧書きで記載の上、下線を付してください。
- ・候補者の貢献度（％）は、各著者の責任の程度等を踏まえ、適切な貢献度を記載してください。
- ・著者が多く 1 枚に収まらない場合は、著者の一部を省略して差し支えありません。省略した人数は「他〇名」と記載してください。ただし、貢献度の大きい主要な著者は省略しないでください。
- ・候補案件の成果と直接関係のない著書、発表未定の著書は記載しないでください。
- ・オンライン上で閲覧可能な著書は、その著書を閲覧することができる URL を記載してください。オンライン上で閲覧できない場合は、URL 欄に「資料添付」と記載し、表紙、前書き及び候補者が執筆したことが分かるページ（当該ページは分担執筆の場合のみ）の写を添付してください。
- ・添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照してください。

11. 論文等一覧

- ・候補案件の研究テーマに関係する候補者の全ての論文を時系列で記載してください。
- ・本項目の記載内容は、「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」を参照ください。ただし、以下の点が異なりますので、ご注意ください。
 ※添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照の上、指定の番号を資料の右肩に付し、指定の順序でファイルをまとめてください。
 ※「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」に記載した論文については、本項にも記載するとともに、通し番号の前に◎を付してください。
 ※論文の概要の記載は不要です。
 ※候補者の貢献度の記載は不要です。
- ・推薦時点において、発表済み及び未発表だがアクセプト済みの総論文数（査読付き）をページ最下部に参考として記載してください（候補案件の研究テーマに関係しない論文を含む。）。

12. 特許・実用新案一覧

- ・候補案件の研究テーマに関係する候補者の全ての特許・実用新案を時系列で記載してください。
- ・本項目の記載内容は、「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」を参照ください。ただし、以下の点が異なりますので、ご注意ください。
 ※添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照の上、指定の番号を資料の右肩に付し、指定の順序でファイルをまとめてください。
 ※「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」に記載した特許・実用新案については、本項にも記載するとともに、通し番号の前に◎を付してください。
 ※特許・実用新案の概要の記載は不要です。
 ※候補者の貢献度の記載は不要です。

13. 著書等一覧

- ・候補案件の研究テーマに関係する候補者の全ての著書等を時系列で記載してください。
- ・本項目の記載内容は、「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」を参照ください。ただし、以下の点が異なりますので、ご注意ください。
※添付資料がある場合、「推薦に必要な申請書類」の頁を参照の上、指定の番号を資料の右肩に付し、指定の順序でファイルをまとめてください。
- ※「10. 候補案件の研究テーマに関する主要な特許・実用新案、論文、著書」に記載した著書については、本項にも記載するとともに、通し番号の前に◎を付してください。
- ※著書等の概要の記載は不要です。
- ※候補者の貢献度の記載は不要です。

14. 新聞等掲載情報一覧

- ・候補案件の成果を取り上げた主要な新聞・雑誌の掲載記事等（15件まで）について、掲載・発刊年月日、掲載紙・雑誌名（新聞の場合、朝夕刊・版の別も記載）、ページ、タイトルを記載してください。
- ・候補者本人が執筆したものや、候補者又は候補者の所属機関による報道発表そのものは記載しないでください。候補者本人が雑誌等に執筆したものは「13. 著書等一覧」に記載してください。
- ・本項目に記載した掲載記事等のうち、候補案件とする研究テーマが具体的に記載され、その内容が理解しやすいものを5件まで選び、通し番号の前に◎印を付してください。
- ・候補案件の成果に直接関係のない掲載記事等については記載しないでください。
- ・オンライン上で掲載記事等の内容が閲覧可能な場合は、その URL を記載してください。オンライン上で閲覧できない場合は、URL 欄に「なし」と記載してください。
- ・テレビ等その他の媒体により取り上げられた場合は、その事実がオンライン上で客観的に確認できる場合に限り記載することが可能です。この場合は、この事実が確認できる URL を記載してください。

15. 参考情報

- ・researchmap に情報を掲載している場合は、その URL を記載してください。
※researchmap とは、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するデータベース型研究者総覧です。（<https://researchmap.jp/public/about>）
- ・候補者の活動をホームページにおいて掲載している場合は、その URL を記載してください。

【様式共通 1】履歴書

- ・氏名は、【様式若手 1】候補調査書に記載した氏名と一致していることを確認してください。
- ・生年月日は年月日まで、学歴、職歴、公職歴、民間団体歴は年月まで記載してください。
- ・記載事項のない項目は、「該当なし」と記載してください。
- ・賞罰は、【様式若手 1】候補調査書の 4. 及び 5. の表彰歴で記載した表彰歴は省略してください。

【様式共通 2】 推薦書（3名分）

- ・3名の推薦書が必要となります。なお、個人推薦の場合は、推薦者本人による推薦書を必ず含めるようにしてください。
- ・本推薦書は候補者の研究能力に対する客観的評価に関わるものです。本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者（3名）（例えば候補者の所属する研究チームのリーダー、サブリーダー又は当該研究チームの一員でも可）がそれぞれの視点から記載してください。したがって、記載内容は推薦書に記載する者によって異なることを前提とします。本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないようにしてください。
- ・A4 縦用紙1枚となるように作成し、推薦書の自筆署名が記載されたものをスキャンしてPDF形式にしてください。署名欄以外の手書きは不可とします。
- ・外国語で記載する場合には、推薦機関（個人推薦の場合は推薦者）が責任をもって日本語訳を作成し、添付してください。

【様式若手 2】 候補者・業績一覧表

- ・様式に記載の「作成・提出に当たっての注意」を参照してください。

若手科学者賞 申請分野分類表

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)	
数物	代数学、幾何学およびその関連分野	代数学 幾何学	
	解析学、応用数学およびその関連分野	基礎解析学 数理解析学 数学基礎 応用数学・統計数学	
	物性物理学およびその関連分野	数物物理・物性基礎 半導体・光物性・原子物理 磁性・超伝導・強相関係 生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	
	プラズマ学およびその関連分野	プラズマ科学 核融合学 プラズマ応用科学 量子ビーム科学	
	素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野	量子ビーム科学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理に関連する理論 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理に関連する実験	
	天文学およびその関連分野	天文学	
	地球惑星科学およびその関連分野	宇宙惑星科学 大気水圏科学 地球人間圏科学 固体地球科学 地球生命科学	
	工学	材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野	材料力学・機械材料 加工学・生産工学 設計工学 機械要素・トライボロジー
		流体工学、熱工学およびその関連分野	流体工学 熱工学
		機械力学、ロボティクスおよびその関連分野	機械力学・メカトロニクス ロボティクス・知能機械システム
		電気電子工学およびその関連分野	電力工学 通信工学 計測工学 制御・システム工学 電気電子材料工学 電子デバイス・電子機器
		土木工学およびその関連分野	土木材料・施工・建設マネジメント 構造工学・地震工学 地盤工学 水工学 土木計画学・交通工学 土木環境システム
		建築学およびその関連分野	建築構造・材料 建築環境・建築設備 建築計画・都市計画 建築史・意匠 デザイン学
		航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野	航空宇宙工学 船舶海洋工学
社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野		社会システム工学 安全工学 防災工学	
材料工学およびその関連分野		金属材料物性 無機材料・物性 複合材料・界面 構造材料・機能材料 材料加工・組織制御 金属生産・資源生産	
化学工学およびその関連分野		移動現象・単位操作 反応工学・プロセスシステム工学 触媒プロセス・資源化学プロセス バイオ機能応用・バイオプロセス工学	
ナノマイクロ科学およびその関連分野		ナノ構造化学 ナノ構造物理 ナノ材料科学 ナノバイオサイエンス ナノマイクロシステム	
応用物理物性およびその関連分野		応用物性 薄膜・表面界面物性 応用物理一般	
応用物理工学およびその関連分野		結晶工学 光工学・光量子科学	
原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野		原子力工学 地球資源工学・エネルギー学	
人間医工学およびその関連分野		生体医工学 生体材料学 医用システム 医療技術評価学 医療福祉工学	

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)
化学	物理化学、機能物性化学およびその関連分野	基礎物理化学 機能物性化学
	有機化学およびその関連分野	構造有機化学・物理有機化学 有機合成化学 無機・錯体化学
	無機・錯体化学、分析化学およびその関連分野	分析化学 グリーンサステナブルケミストリー・環境化学
	高分子、有機材料およびその関連分野	高分子化学 高分子材料 有機機能材料
	無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野	無機物質・無機材料化学 エネルギー関連化学
	生体分子化学およびその関連分野	生体関連化学 生物分子化学 ケミカルバイオロジー
農学	農芸化学およびその関連分野	植物栄養学・土壌学 応用微生物学 応用生物化学 生物有機化学 食品科学 応用分子細胞生物学
	生産環境農学およびその関連分野	遺伝育種科学 作物生産科学 園芸科学 植物保護科学 昆虫科学 生物資源保全学 ランドスケープ科学
	森林圏科学、水圏応用科学およびその関連分野	森林科学 木質科学 水圏生産科学 水圏生命科学
	社会経済農学、農業工学およびその関連分野	食料農業経済 農業社会構造 地域環境工学・農村計画学 農業環境工学・農業情報工学 環境農学
	獣医学、畜産学およびその関連分野	動物生産科学 獣医学 動物生命科学 実験動物学
	生物学	分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野
細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野		細胞生物学 発生生物学 植物分子・生理科学 形態・構造 動物生理化学・生理学・行動学
個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野		遺伝学 進化生物学 多様性生物学・分類学 生態学・環境学 自然人類学 応用人類学
神経科学およびその関連分野		神経科学一般 神経形態学 神経機能学
薬学および生理学	薬学およびその関連分野	薬系化学・創薬科学 薬系分析・物理化学 薬系衛生・生物化学 薬理学 環境・天然医薬資源学 医療薬学
	生体の構造と機能およびその関連分野	解剖学 生理学 薬理学 医化学
	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野	病態医化学 人体病理学 実験病理学 寄生虫学 細菌学 ウイルス学 免疫学

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)
医学	腫瘍学およびその関連分野	腫瘍生物学
		腫瘍診断・治療学
	ブレインサイエンスおよびその関連分野	基盤脳科学
		認知脳科学
		病態神経科学
	内科学一般およびその関連分野	内科学一般
		神経内科学
		精神神経科学
		放射線科学
	器官システム内科学およびその関連分野	胎児医学・小児成育学
		消化器内科学
		循環器内科学
		呼吸器内科学
		腎臓内科学
	生体情報内科学およびその関連分野	皮膚科学
		血液・腫瘍内科学
	恒常性維持器官の外科学およびその関連分野	膠原病・アレルギー内科学
		感染症内科学
		代謝・内分泌学
	生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野	外科学一般・小児外科学
		消化器外科学
		心臓血管外科学
		呼吸器外科学
		麻酔科学
	口腔科学およびその関連分野	救急医学
		脳神経外科学
		整形外科学
		泌尿器科学
	社会医学・看護学およびその関連分野	産婦人科学
		耳鼻咽喉科学
		眼科学
		形成外科学
		常態系口腔科学
病態系口腔科学		
スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野	保存治療系歯学	
	口腔再生医学・歯科医用工学	
	補綴系歯学	
	外科系歯学	
人間医工学およびその関連分野	成長・発育系歯学	
	社会系歯学	
	医療管理学・医療系社会学	
	衛生学・公衆衛生学:実験系を含む	
	衛生学・公衆衛生学:実験系を含まない	
情報科学、情報工学およびその関連分野	法医学	
	基礎看護学	
	臨床看護学	
	生涯発達看護学	
	高齢者看護学・地域看護学	
	リハビリテーション科学	
	スポーツ科学	
	体育・身体教育学	
	栄養学・健康科学	
	生体医工学	
生体材料学		
情報学基礎論	医用システム	
	医療技術評価学	
	医療福祉工学	
	情報学基礎論	
	数理情報学	
	統計科学	
	計算機システム	
	ソフトウェア	
	情報ネットワーク	
	情報セキュリティ	
人間情報学およびその関連分野	データベース	
	高性能計算	
	計算科学	
	知覚情報処理	
	ヒューマンインタフェース・インタラクション	
	知能情報学	
	ソフトコンピューティング	
知能ロボティクス		
応用情報学およびその関連分野	感性情報学	
	デザイン学	
	認知科学	
	生命・健康・医療情報学	
	ウェブ情報学・サービス情報学	
環境学	学習支援システム	
	エンタテインメント・ゲーム情報学	
	図書館情報学・人文社会情報学	
	環境動態解析	
環境学	放射線影響	
	化学物質影響	
	環境影響評価	

大区分 (分野)	中区分 (分科)	小区分 (細目)
環境学	環境保全対策およびその関連分野	環境負荷・リスク評価管理
		環境負荷低減技術・保全修復技術
人文・社会	思想、芸術およびその関連分野	環境材料・リサイクル技術
		自然共生システム
		循環型社会システム
		環境政策・環境配慮型社会
		哲学および倫理学
	文学、言語学およびその関連分野	中国哲学、印度哲学および仏教学
		宗教学
		思想史
		美学および芸術論
		美術史
芸術実践論		
科学社会学および科学技術史		
デザイン学関連		
歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野		日本文学
		中国文学
	英文学及び英語圏文学	
	ヨーロッパ文学	
	文学一般	
地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野	言語学	
	日本語学	
	英語学	
	日本語教育	
	外国語教育	
法学およびその関連分野	図書館情報学および人文社会情報学	
	史学一般	
	日本史	
	アジア史およびアフリカ史	
	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	
政治学およびその関連分野	考古学関連	
	文化財科学	
	博物館学	
	地理学	
	人文地理学	
経済学、経営学およびその関連分野	文化人類学および民俗学	
	地域研究	
	観光学	
	ジェンダー	
	基礎法学	
社会学およびその関連分野	公法学	
	国際法学	
	社会法学	
	刑事法学	
	民事法学	
教育学およびその関連分野	新領域法学	
	政治学	
	国際関係論	
	地域研究	
	ジェンダー	
心理学およびその関連分野	理論経済学	
	経済学説および経済思想	
	経済統計	
	経済政策	
	公共経済および労働経済	
環境学	金融およびファイナンス	
	経済史	
	経営学	
	商学	
	会計学	
環境学	観光学	
	社会学	
	社会福祉学	
	家政学および生活科学	
	観光学	
環境学	ジェンダー	
	教育学	
	教育社会学	
	子ども学及び保育学	
	教科教育学および初等中等教育学	
環境学	高等教育学	
	特別支援教育	
	教育工学	
	科学教育	
	日本語教育	
環境学	外国語教育	
	社会心理学	
	教育心理学	
	臨床心理学	
	実験心理学	
環境学	認知科学	

※若手科学者賞候補調査書【様式若手1】中、「1.業績名」欄において、候補案件とするテーマがどのような研究分野に属するかについて、上記表に従い、大区分、中区分、小区分まで記載すること。